

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	海老名中央共同住宅	階数	地上12F
建設地	海老名市中央3丁目1431番1	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	194人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,640時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年11月 予定	評価の実施日	2013年12月24日
敷地面積	951 m ²	作成者	アイ・エス・プランニング
建築面積	493 m ²	確認日	2013年12月24日
延床面積	4,243 m ²	確認者	アイ・エス・プランニング



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト

参照値 100%

建築物の取組み 91%

上記+ 以外の 90%

上記+ 90%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもので、(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 3

LR1 エネルギー: 4.7

LR2 資源・マテリアル: 3.5

LR3 敷地外環境: 3.1

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.3**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.8**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>・丹沢山系を眺望する、自然あふれる立地によってあった国分寺遺跡も残る歴史ある地に、近年は商業施設開発が進められおり、自然調の素材や植栽を多様することで、駅直近という立地にありながらも自然のぬくもりを感じながらの生活が可能となります。商業地に位置するため、外観は商店街の街並みに調和するように色彩・照明計画等に配慮しました。また、断熱性能の向上や潜熱回収型給湯器・太陽光発電の使用等、エネルギー環境にも配慮した計画としています。</p>	<p>住戸内は居住者のライフスタイルにあわせて住まい方も変えられる長期対応型の住宅とするため、リビングと居室との間は、壁で仕切るのではなく、一体の部屋として使用できるように引戸等を採用しています。</p>
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>・F 及びホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量の少ない建材を使用します。・住宅性能評価省エネ対策等級4相当の高断熱住宅とし、省エネ法基準に相当するエネルギー削減の対策を講じます。</p>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>・外観は生活環境に馴染む茶系アースカラーの素材で展開しており、商業地との色調の調和を図っています。・道路沿いに積極的に自然調の素材を使用し植栽を積極的に配置することで、建物と道路との間に環境的・心理的な緩衝領域を形成しました。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>・外壁断熱厚さを考慮し建物の熱負荷抑制に努めます。・潜熱回収型給湯器、太陽光発電設備の採用で、高効率で地球にも優しい設計になっています。</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>・広告物照明はなく、光害対策ガイドラインのチェックリストによる項目を一部満たしています。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと。評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される。